

項目	観点	教科書名	教科書名	教科書名
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	○生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、どのような配慮がされているか。	美術(9・開隆堂) 『 社会とつながる文化を生み出す 』 美術の学習を通して、見方や考え方を広げ社会に役立つ、価値を生み出し、未来を作る、としている。 ・生徒にとって親しみのある現在進行形の作品を掲載 興味・関心をもちながら、身近なものと美術文化をつなげて捉えられるようにしている。 新海誠、荒木飛呂彦、エリック・カール、映画ドラえもん、隈研吾 ほか ○ 社会とのつながり ・美術の学習がSDGsの活動や豊かな社会の創造につながることを意識し、取り上げている。 ・インクルーシブな視点で紙面がデザインされている。また、共生社会実現に向けた取組を鑑賞題材に設定している。 ユニバーサルフォントの採用 中学校以上で学習する漢字にすべてルビをふっている。 ・共同制作や地域連携の事例を取り上げ、社会に開かれた教育課程を意識している。 ・文字デザインの題材では、鑑賞素材として、ひたちなか市の標識が取り上げられており、県民として誇らしい。	美術(38・光村) 『 言葉を大切にした教科書 』 美術の学びを深めるために、生徒からあふれるたくさんの言葉を紹介している。自分の作品について、自分の言葉で語れる、伝える人に、という思いが伝わる。 ・生徒作品のインタビュー動画を数多く掲載している。 ○ 社会とのつながり ・SDGsゴール:題材の最初のページ下部に関連する目標を示している。持続可能な社会について考え行動できる生徒の育成を図っている。 ・2・3(P.68～69)『暮らしの中のデザイン・工芸』…1日の流れに沿って生活デザインを紹介している。 ・多様性として『個性を認める力』を取り上げている。 ・情報、防災・安全分野の題材を取り上げている。 ・ユニバーサルデザインの視点:紙面構成、カラーデザイン、文字 ・地域の魅力を表すパッケージ…全国のお土産を紹介するQRコンテンツを見ることができ。 ・キャリア教育 巻末に、美術・文化と生き方、社会との関わりについて考えることを促している。	美術(116・日文) 『 美術の学び 』 豊かな感性を育みながら自ら課題を発見し、試行錯誤しながら解決方法を探り、新たな価値を創造する、としている。生徒が様々な作品や活動と出会い、考え、表現し味わうことで、多様性を体験できるとしている。 ○ 社会とのつながり ・キャリア教育 美術の学びが活躍に生かされている有名人(松任谷由実、所ジョージ) 美術関連の仕事の面白さを紹介。地域活性化や文化財復元など。 ・ユニバーサルデザイン:色覚特性への配慮、ユニバーサルフォントの採用 SDGsゴール:持続可能な社会との関わりを意識付け。 ・SDGsの目標を表す色について着目し、美術と社会的なつながりを実感できる。 ・環境、防災・安全、多文化共生、平和・人権、伝統文化、AI・先端技術についても取り上げている。 ・主題を生み出しやすいように発想や構想の手立てのページを設けたり、美術作品の日常生活の中での役割等を示したりすることで、生徒が主体的に主題を生み出し発想・構想をしやすく配慮がされている。 ・文字デザインの題材では、ひたちなか市の美乃浜学園の駅名標を考えたデザインが掲載されている。生活の中で美術が関わっていることが実感できる。 ・身近な日本の地域の祭りを中心に取り上げ、文化や伝統について豊かにかかわることが実感できる。 ・動画コンテンツでは、作品の見方、作者の思い、制作の過程の紹介だけでなく、作品があることで地域社会にどのような働きかけをしているかを考えることができるように構成されている。 ・パッケージデザイン…受け取る人の気持ちを考える商品パッケージと地域の特色を伝えるものとデザインの目的が細分化されたため、発想や構想の活動で考え方の焦点をしぼりやすくなった。
2 内容の程度及び取扱いについて	○主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	『 興味・関心 』『 なんでもいいからまずやってみる 』 ・教科書を手にとった時に、学習に興味・関心ももてるような工夫 見て、触って、楽しめる加工を施している。 ・1年の導入ページで図画工作から美術へのつながりを大切にしていることがわかる。 ・「世界観や魅力を伝える イラストレーションを描く」作品例にパッケージデザインの紹介がある。 ○ ジャポニズム(2・3P.32～33) 琳派が西洋に与えた影響に重きをおいている。掲載作品は紅白梅図屏風(尾形光琳)とアデーレ・ブロッホーパウアーの肖像 I (グスタフ・クリムト)と絞られ、互いに比較鑑賞ができる構成である。	『 評価に役立つ教科書 』 評価のイメージももてる生徒の活動場面の写真が多く掲載されている。 ・資料を別冊にすることで技法や知識をわかりやすくまとめている。 ・作者のインタビューがQRコードで読み込み、作品だけでなく、そこに込められた思いや作者の工夫がわかり、制作のヒントになる。 ・「文字を分析してみよう」では「身の回りの文字のデザイン 発見レポート」を掲載し、生徒の視点からの感想文も掲載されていて主体的学びの参考になる。 ・作品を鑑賞して感じ取ったことを的確な言葉で伝えるために、印象や様子を表す語句を示し、生徒が選択できるようにしている。 ○ ジャポニズム(2・3P.43～45) ゴッホに焦点を当てて、ジャポニズムを考える構成。ゴッホのタンギー爺さんの肖像やひまわりが掲載され、ゴッホが浮世絵から受けた影響について紹介している。ゴッホ独特のタッチが印象に残る。	『 発想と構想(思考のプロセス) 』 ・生徒の活動の様子が分かる情景写真を掲載。 「自分ならこうしてみたい」や「やってみよう」という意欲を引き出し、自ら主題を生み出せる工夫が見られる。 ・発想・構想の手立てが充実している。 思考のプロセスのヒントとなる『アイディアスケッチ』や『表現のヒント』、『作者のこぼれ』がどの題材においても掲載されている。 ・主体的な活動のための『学びの資料』 充実したQRコンテンツにより、必要なタイミングで個別で制作に生かせる知識や技能を動画で確認できる。 ・教科書の表紙から開いた1ページ目への関連性があり、流れがスムーズで美術の見方や考え方が、わかりやすく伝えられている。 ・「短時間でつくる」のコーナーでは、簡単に制作し、タブレットで撮影、加工するなど、身近なことから発想を広げ、主体的な学びが広がるしかけがある。 ・対話が生まれやすくなるようなしかけ 個人から全体へと広がる作品のよさを味わえる題材を設定。 ・「あなたなりの美を見つけて」では中学生が撮影した「私の見つけた美」というテーマの写真が多数掲載され、いつもの生活の中で自分なりの見方や感じ方、発見を大事にしてみようという気づきを与えている。 ・鑑賞「富嶽三十六景」(2・3上P.)表紙に掲載され、年度初の授業で取り扱うことを想定して、ページをめくると富士山を対象に表現した様々な絵画や制作者の写真が示されている。それぞれの作者の表現や手法の違いから、比較鑑賞することを通して見方や考え方が深められるように工夫されている。 ○ ジャポニズム(2・3上「日本文化との出会い」) 尾形光琳とゴッホの両方を取り上げてから、ジャポニズムの影響について理解するために作品を幅広く取り上げている。さらに外国作品において、どう取り入れられているか考える視点を示している。
3 内容の配列・分量	○題材の構成や教材の配列には、どのような特色があるか。	○ 資料が別冊になっている。 技法や知識をわかりやすくまとめている。現在使用している資料集ほどの内容はないが、改めて購入する必要がないことから、保護者の負担軽減が期待できる。 また、表現と鑑賞の相互の関連を意識し、一つの題材の中で一体的に学べる構成となっている。 ○ 2冊の教科書 厚みに差がある。 ○ 道徳とのつながり 道徳科とのつながりが強調されている。また、他教科とのつながりを示すコラムが設けられており、美術での学びと他教科とどうつながるのか理解できる。	○ 豊富な資料 ・すべての表現題材の中に鑑賞活動を取り入れて表現と鑑賞の一体化を図っている。 ・和紙刷り「日本画を楽しむ」資料では、描かれた対象や構図、余白などの情報が示され知識が身に付けられる。 ・表現技法や生徒の制作の様子の資料が豊富である。 ○ 2冊の教科書 厚みに差がある。	○ 絵画と立体のバランスがよい。 ○ 3冊の教科書:各学年の発達段階を踏まえた構成 それぞれで『育てたい生徒の姿』と『ねらい』が明確になっている。学年始めのオリエンテーションでは、表紙からページをめくって学びが途切れないスムーズな展開ができる。 ・各学年の発達段階を考慮し、系統だった題材設定がなされている。 1年生 『美術との出会い』身近なものを対象に 2年生 『学びの実感と深まり』多様な表現に触れ、気付きや学びを実感 3年生 『学びの探求と未来』自分自身を見つめて新たな価値の創造へ 生徒の成長に応じて系統立てた指導計画が作成できるようになっている。 例えば、デザイン伝達では、1年で文字デザイン、2年でピクトグラム、3年ではこれまでの学びを生かしたパッケージデザインを設定すると連続性がある。 ・指導者も大きなテーマを意識することで、学年や発達段階に合わせた学習指導の計画を明確にもつことができる。 ・「原始の美に出会う旅」では、美術の原点を考えさせたり、社会科の学習とのつながりがもたれやすくなる内容になっている。
4 表記・体裁・資料	○用語や写真、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなどの使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	○ 興味・関心・意欲を高める工夫 ・表紙に見て、触って、楽しめる加工を施している。 ・導入ページで図画工作から美術へのつながりを大切にしていることがわかる。 ・学習をサポートするキャラクター(先生・生徒2)を登場させることで、親しみを持たせながらより深い学習へ導こうとしている。 ・「著作権を知らう」では、著作権について詳しく掲載している。 ・「美術とともに生きていく 中学校を卒業する君へ」…アーティストの作品や言葉が掲載され、生徒の旅立ちを応援する内容である。	○ 知識や技法を豊かな言葉や資料で伝える工夫 ・QRコンテンツが充実している。 『体感ミュージアム』:書き込みツールと高精細画像 『360°写真』、5分で分かる『解説動画』 ・巻末の『学びの資料』が充実している。 1年15P、2・3年20P以上 ・校庭の中庭の写真にそれぞれ見る角度や時間帯など様々な視点を持って見た写真が掲載されていてわかりやすい。 ・作品解説、書き込みツール、鑑賞を広げる言葉集などの多様な資料がある。 ・2・3年巻末:生徒の旅立ちを応援する谷川俊太郎の詩が掲載	○ 学びを見通し、指導しやすく、分かりやすく ・3分冊により軽量化を実現。生徒の体の負担軽減 再生紙の中でも良質なコート紙を使用。鮮やかで自然な色味を実現。 ・実感的理解を生み出す工夫 美術1:表側『風神雷神図屏風』二曲一双、裏側『唐獅子図屏風』六曲一双 折り目に沿って、どちらを折り曲げて鑑賞できる造本上の工夫がある。 ・QRコードで立体作品が360°からみられるようになっている。 ・「学びのはじめに」と「動画を見てみよう」とQRコードが2つに分かれていることで指導しやすい。 ・「火焰型土器」の写真が、原寸大であたたかな色調や奥行のあるアングルでとらえられていて立体感がつかみやすい。 ・「学びを支える資料」のページが豊富で、発想や技法、色彩など、知識や技能などを支える工夫が見られる。 ・動画コンテンツ「表紙の動画を見よう」…1年の始まりの授業で使用することを考えて作成されている。どんな見方や考え方で学習に取り組みばよいか、生徒が1年の見直しをもてる内容である。 ・鑑賞では『考える視点』により自分の見方や感じ方や考え方を大事にできる。 ・表現・鑑賞を一体化することで「造形的な視点」をわかりやすく示し、美術の学習で身に付けたい見方考え方を教師も生徒も意識できる。